

# 心と魂で

私はパレスチナに生まれなかった。  
しかし私は私の民に属している — 心と魂で。

帰属は書類に書かれるものではなく、  
国境が作るものでもない。  
帰属は心に書かれる。  
帰属は魂に運ばれる。  
帰属は愛、忠誠、そして犠牲の中に証明される。

私は一度もガザの海岸に立ち、太陽が海に沈むのを見たことがない。  
私は一度もエルサレムの丘を歩いたことがない、太陽の光に輝く丘を。  
私は一度もその古代の畑からオリーブを摘んだことがない。  
私は一度もアル＝アクサの中庭で祈ったことがない、その永遠のアーチと尽きぬ空の下で。

私は一度も飛行機の轟音で目を覚ましたことがない。  
私は一度も破壊された家々の瓦礫から逃げたことがない。  
私は一度も砕けた星々の光の下で子供たちを埋葬したことがない。  
私は一度も愛する者たちの遺体をビニール袋に集めたことがない。

それでも — すべての傷は私を傷つけた。  
すべての不正な死は私の胸を重くした。  
すべての孤児の叫びは私を揺さぶった。  
すべての母の涙は私を沈黙させた。  
すべての父の祈りは私を支えた。  
すべての子供の希望は私を高めた。

彼らの傷は私の傷である。  
彼らの不屈は私の誇りである。  
彼らの希望は私の力である。  
そして彼らの大義は私の義務である。

私は彼らの間に訪問者として立つのではない。  
私は彼らを他人のように語るのではない。  
私は血族として立つ。  
私は家族として立つ。  
私は唯一の存在として立つが、決して一人ではない。  
私は名のように唯一であり、運命のように民と一つである。

私を彼らに結びつけるのは大地ではなく、愛である。  
偶然の運命ではなく、定められた運命である。  
狭い国籍ではなく、広大な民族である。

私は武器で戦うのではなく、言葉で戦う。  
私は憎しみで抵抗するのではなく、真実で抵抗する。  
そして私は雌ライオンが子を守るように、民を守る：  
弱まることのない愛で、  
碎けることのない勇気で、  
安らぐことのない忠誠で、小さき者たちが安全になるまで。

真実は私の剣である。  
正義は私の盾である。  
忍耐は私の鎧である。  
そしてこれらをもって、私は決して降伏しない。

私はパレスチナに生まれなかった。  
しかしパレスチナは私の中に生まれた。  
そして私は私の民と共にあり続ける —  
不正の鎖が断ち切られるまで、  
正義が大地を川のように流れるまで、  
祈りの呼び声がすべてのミナレットから自由に響くまで、  
安全 — 真実の安全 — が預言者と殉教者の地に戻るまで。

そして私は言う：私は忘れない。  
私は沈黙しない。  
私は顔を背けない。  
今日も。明日も。決して。

私は殉教者を記憶する。  
私は不屈の者たちを敬う。  
私は大義を担う。  
私は希望を守る。  
そして私は戦う — 言葉で、真実で、魂で —  
神の約束が成就するまで、  
虐げられた者たちが大地を受け継ぐその時まで。